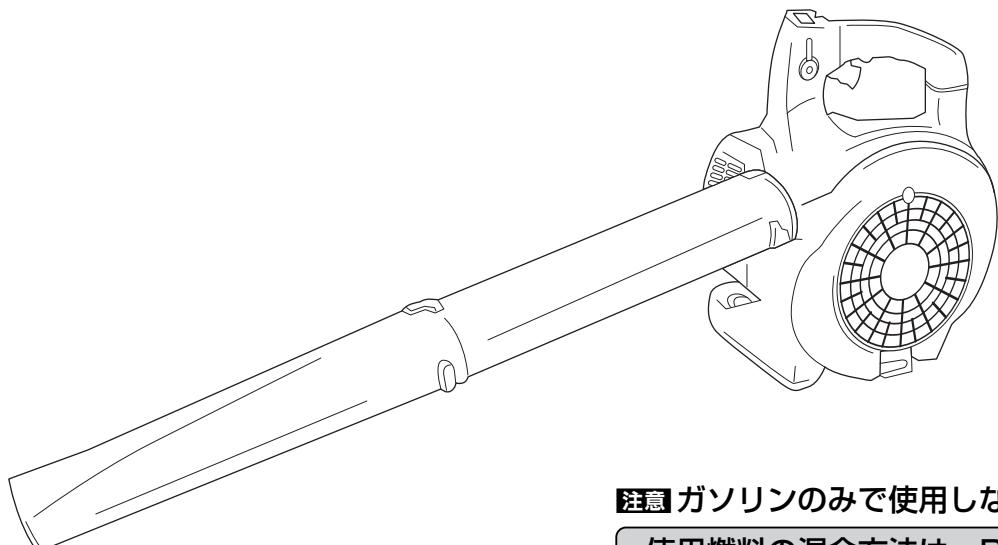


取扱説明書

エンジンブロア

RBL300S-1



注意 ガソリンのみで使用しないでください。

使用燃料の混合方法は、P11～12を参考してください。

目 次

1. ▲安全作業説明	2	6. 作業の準備	10
2. 各部のなまえ	4	7. 点検・整備	19
3. ▲警告ラベルの取扱い	6	8. 長期保管	24
4. 主要諸元	7	9. 故障と対策	25
5. 組立	8		

▲ご使用になる前に必ずお読みください。
まずははじめに**▲**安全作業説明をお読みください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。
この取扱説明書は、安全で快適な作業を行なっていただくために、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しております。

ご使用の前によくお読みいただいて充分理解され、本製品がいつまでもすぐれた性能を発揮出来るようにこの本書をご活用ください。また、お読みになったあと必ず大切に保管し、分からぬことがあったときには取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などによりお買い上げの製品と本書の内容が一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

本製品についてお気付きの点がございましたら、最寄りの取扱店にお問い合わせください。

■使用目的

本製品は、主として屋外の住居などの落ち葉、芝刈後の芝の掃除や、野球場・公園・道路などのゴミの清掃を目的とした手持ち式のプロア製品です。この使用目的範囲を逸脱しての使用が原因での事故、許可なく改造及び分解を行ない、それに伴って生じた事故に関して一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■注意表示について

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示がある警告ラベルは人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

- ▲ 危険** ……もし警告に従わなかった場合死亡または重傷を負うことになるもの。
- ▲ 警告** ……その警告に従わなかった場合死亡または重傷を負う可能性があるもの。
- ▲ 注意** ……その警告に従わなかった場合けがを負う可能性があるもの。
- 注意** ……その警告に従わなかった場合機械の損傷の可能性があるもの。

■機械を他人に貸すとき、運転させるとき

事前に運転の仕方を教え、機械に貼ってある▲(安全注意マーク)印の付いている警告ラベルも一枚ずつ説明してあげてください。親切心が仇にならないように機械と一緒に取扱説明書を渡し、よく読んで理解し取扱方法を会得してから作業するように指導してください。

とくに禁止事項については念を入れて説明してください。

ご家族に運転させるときも同じように説明してください。

自分が使用するつもりで！



1 ▲安全作業説明

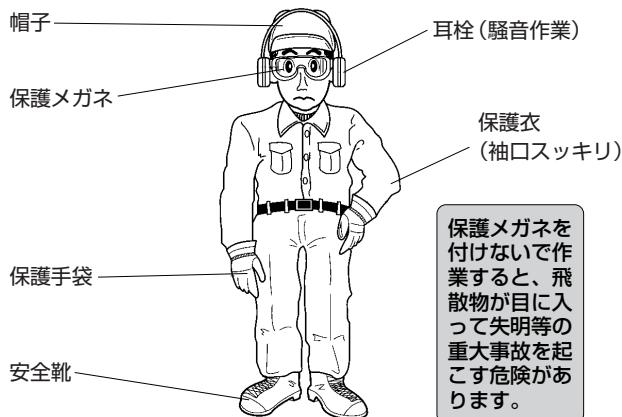
取扱方法を誤ると重大な事故を招きます。ここに書かれた安全作業を必ず守ってください。

【作業前の注意】

▲警告

体内にてペースメーカーを使用している人はプロアを使用しないでください。ペースメーカーが誤動作をおこす可能性があります。

下図のように、飛散物から目を保護するゴーグルタイプの保護メガネ、騒音から耳を保護する耳栓やイヤーマフ、頭を保護する帽子、手を保護する保護手袋、飛散物から足を保護する滑り止め付の安全靴を必ず着用してください。



- 衣服は袖、裾じまりの良い身体にぴったり合った長袖の上着、長ズボンを着用してください。
- 頭髪の長い人はしばったりして髪が巻き込まれない様にしてください。
- 作業開始前の準備体操も、安全作業にとって効果的です。



- 体調の悪い時、また酒酔の時には絶対作業しないでください。
- 工具、燃料缶、薬品（虫さされ他）等を携行してください。
- 各部のネジを点検し、ゆるみのあるところは締めしてください。

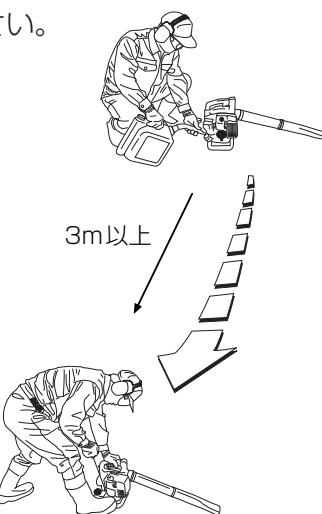
- 子供には使用させないでください。
- 作業現場からワイヤロープ、ビニールひも等、作業の障害になるものを取り除いてください。
- 混合燃料を補給するときや点検整備するとき、近くで煙草を吸ったり、タキ火をしたりすると、火災等の事故を起こすことがあります。機械の近くでは火は絶対に使わないでください。



- 混合燃料の補給は、必ずエンジンを停止させ、冷えてから行なってください。
- 混合燃料をこぼしたときは、拭き取ってください。
- 混合燃料の補給後、タンクキャップから燃料もれのないことを確認してください。
- 部品は当社の純正品を使用してください。間に合わせのもの、粗悪なものは事故の原因になります。
- 本機の改造は決してしないでください。
- 夜間および風雨の時、作業は行なわないでください。

【作業中の注意】

- 始動は混合燃料補給場所から3m以上離れた場所で始動してください。



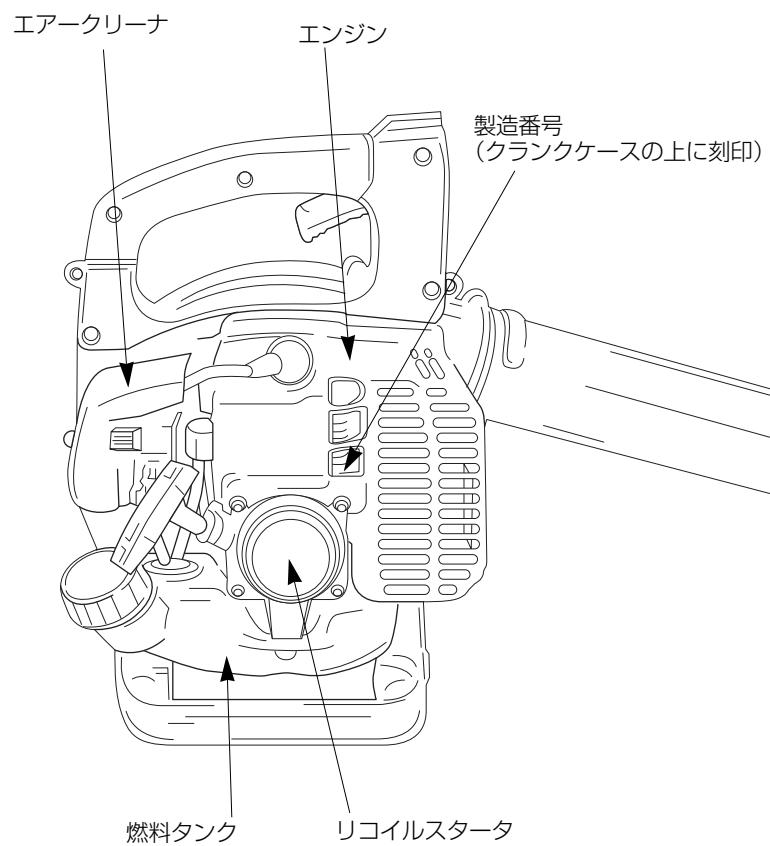
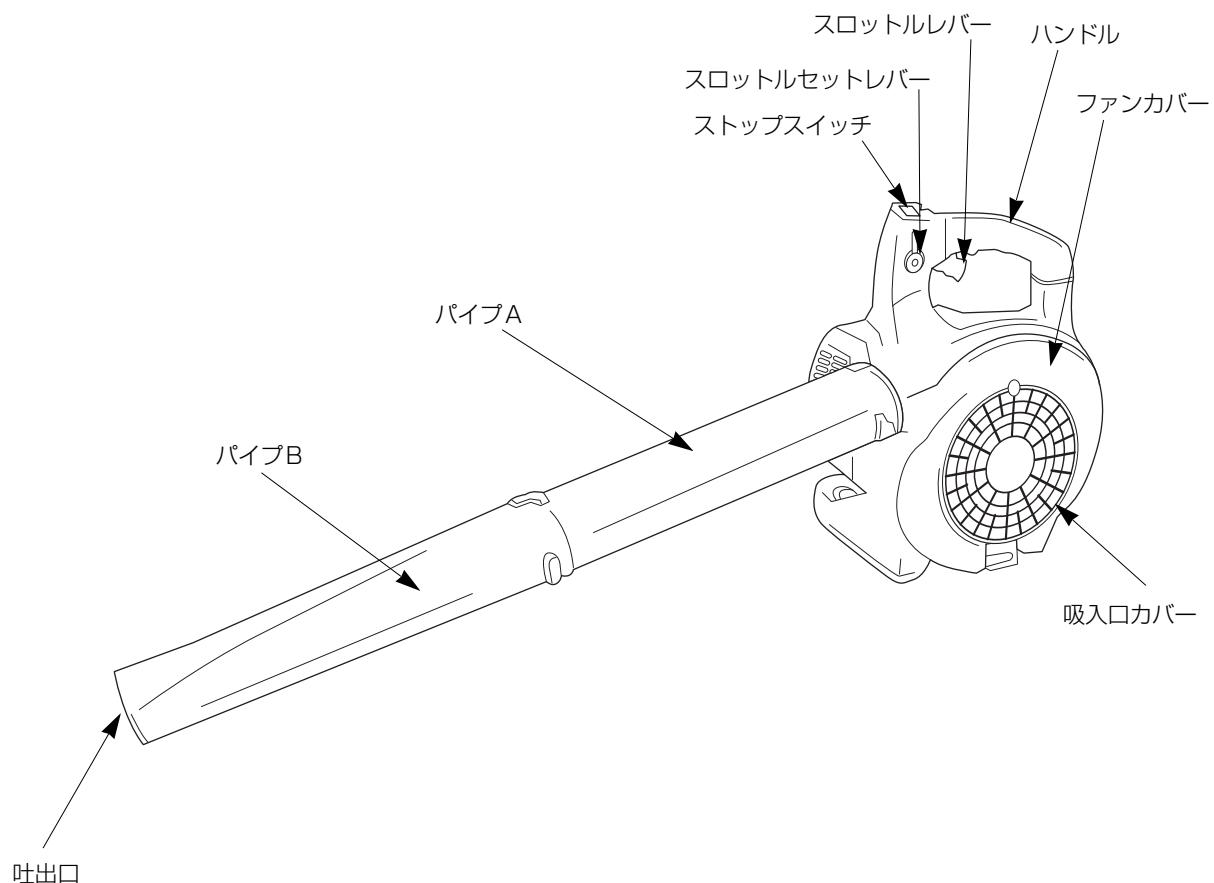
- エンジン始動は安定した場所で、行なってください。

- 感電防止のためエンジンの回転中、プラグキャップにさわらないでください。
- エンジンは運転中、停止直後は高温です。マフラー、シリンダにさわらないでください。
- 吐出口から吐出する風は高速です。人に向かって吐出しないでください。
- 本機は高速回転体で大変危険です。運転中は吸入口や吐出口から手を入れないでください。
- 室内では始動、運転しないでください。一酸化炭素中毒になるおそれがあります。
- 排気ガスは人体に有害ですから吸わないでください。
- 作業中に混合燃料が漏れた場合は、直ちにエンジンを停止し、最寄りの取扱店に依頼し、整備してください。
- 近く（15m以内）に人（犬等のペット含む）がいないことを確認してから機械を始動してください。また、作業に直接関係ない人は作業場所に絶対入れないでください。
- 作業中以外はスロットルレバーを最低速に下げエンジンをアイドリング状態にするか、またはエンジンを停止してください。
- エンジンの回転を上げるときは、ゆっくりとスロットルレバーを操作してください。急激に回転を上げると、機械の損傷や事故を起こすことがあります。
- 騒音などの問題になる時間帯はさけて状況に応じてエンジンの回転を低くしてご使用してください。
- 作業中は、ハンドルをしっかり握って安定した姿勢で作業してください。
- ハンドルにはオイル、燃料、泥等を付けない様にしてください。
- 次の場合、必ずエンジンを停止してください。
 1. 混合燃料補給のとき。
 2. 各部の点検、整備、清掃のとき。
- 機械に異常（異常音、異常振動、不具合）を感じたときは、直ちに作業を中止して機械を修理してください。

【作業終了後の注意】

- 停止直後、エンジンは高温です。マフラー、シリダにさわらないでください。
- エンジンを停止した後も、冷えるまで可燃物（混合燃料、枯草等）の近くに、本機を置かないでください。
- 次回、使用するときのため、各部の異常の有無を点検してください。
- 運搬する時は、機械の燃料タンクを空にし、運搬車両の荷台へ本機を固定してください。自転車やバイク等2輪車での運搬は不安定で危険ですから決してしないでください。
- 本機を他人に貸すときは、機械と一緒に取扱説明書を渡し、よく読んで取扱い方法を理解し、会得してから作業するように指導してください。特に禁止事項については、念を入れて説明してください。

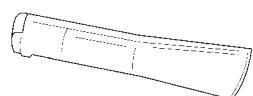
2 各部のなまえ



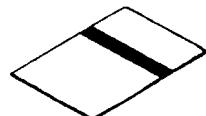
() 内は部品番号です



パイプA 1本
(281875)



パイプB 1本
(281876)

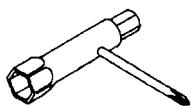


取扱説明書/1冊
(287450)

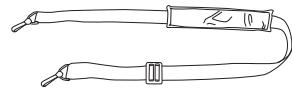
付
属
品



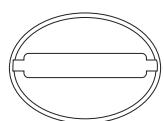
6角棒スパナ
3mm/1個
(219431)



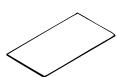
プラグレンチ 1個
(210418)



肩掛けバンド
(283264)



インテークフード 1個
(286083)

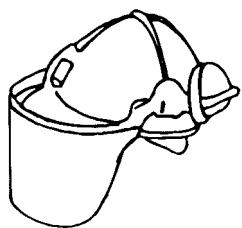


保証書/1葉

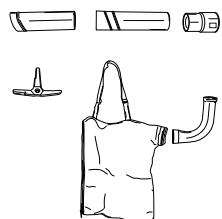
オ
プ
シ
ョ
ン
・
別
売



ケムナイトエコ
100DX-1 0.6L
(425033)



フォレストヘルメット
(587526)



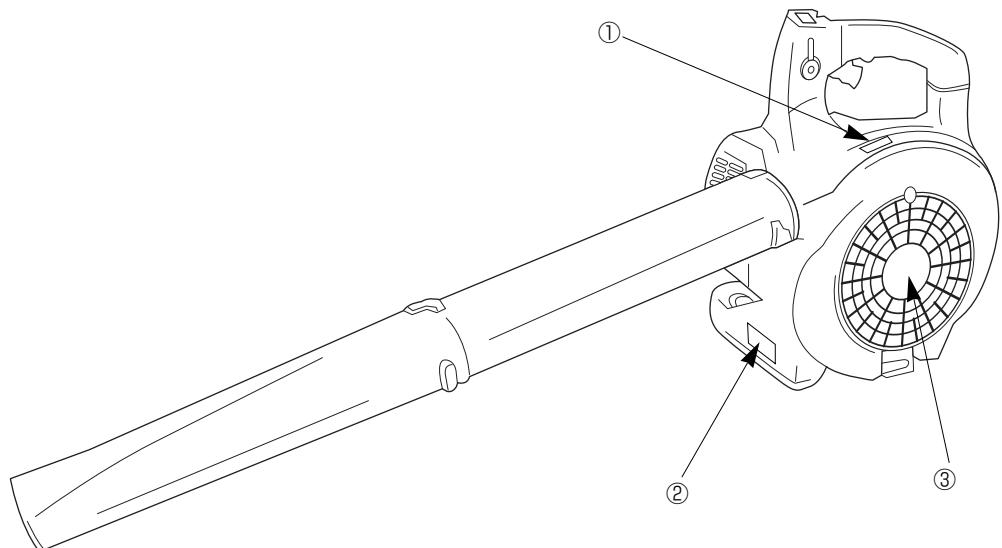
バキュームキット
(395757)

3 ▲警告ラベルの取扱い

▲注意

- いつも汚れや泥をとり、表示内容がハッキリと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷した場合は、必ず新しいラベルと交換し、同じ場所に貼ってください。
- 警告ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい部品の同じ場所に同じ警告ラベルを貼ってください。

※本機には次の警告ラベルが貼ってあります。よく読んで理解した上で作業してください。
下記にその内容を記載しておりますので、よく読んでください。



①警告ラベル (269705)



③警告ラベル (287448)



②警告ラベル (283313)



4 | 主要諸元

名 称	RBL300S-1
使 用 用 途	落ち葉、芝刈後の芝、ゴミ等の清掃作業
全長 (mm) ※	325
全幅 (mm) ※	225
全高 (mm) ※	370
質 量 (kg) ※	4.3
工 ン ジ ン	形 式 空冷2サイクル縦型ピストンバルブ式 総 排 気 量 30.1cm ³ 使 用 燃 料 潤滑油混合ガソリン 使 用 潤滑油 市販2サイクル専用オイル 混 合 比 50(ガソリン) : 1 (市販2サイクル専用オイル／FD、FC級) 25(ガソリン) : 1 (市販2サイクル専用オイル／FB級) 燃 料 タンク容量 0.5L 氣 化 器 ロータリーバルブ式ダイヤフラム(チョークキャブ) 点 火 方 式 無接点マグネット一点火 点 火 プラグ CHAMPION CJ6Y 始 動 方 式 リコイル式(Rスタータ) 停 止 方 式 一次線短絡式(スライドスイッチ)

※ パイプA、パイプB未装着状態

- 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。
- 重量はパイプA、パイプBを除きます。また燃料を入れてない状態です。

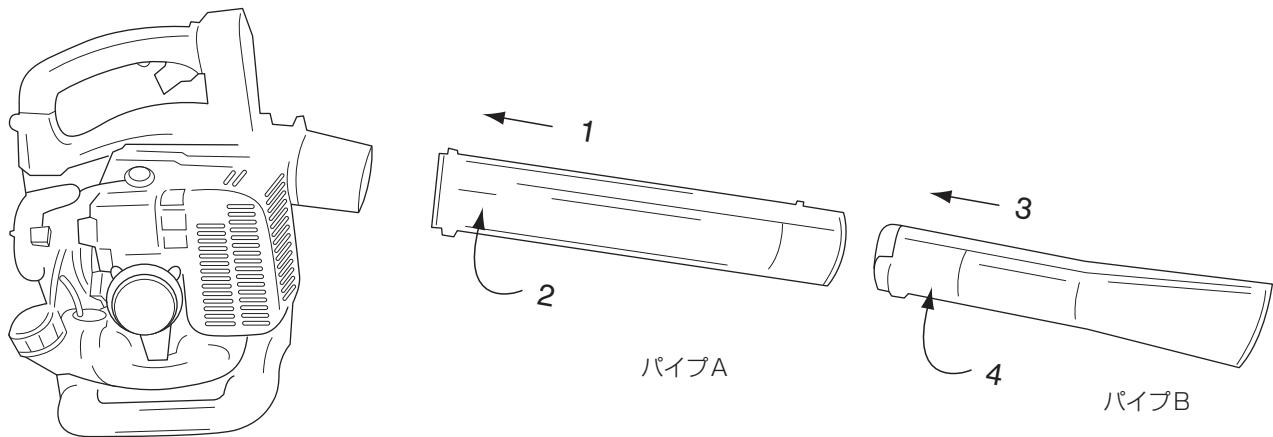
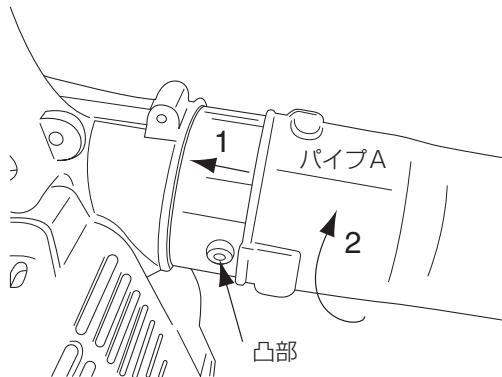
5 組立

(1) ブロアパイプの取り付け

⚠ 警告

ブロアパイプを取り付け、又は取り外すときは、エンジンを停止してください。

1. パイプAの取り付け溝をプロアの凸部に合わせ、押し込んでください。
2. パイプAを右にロックするまで回してください。
3. パイプBの取り付け溝をパイプAの凸部に合わせ、押し込んでください。
4. パイプBを右にロックするまで回してください。

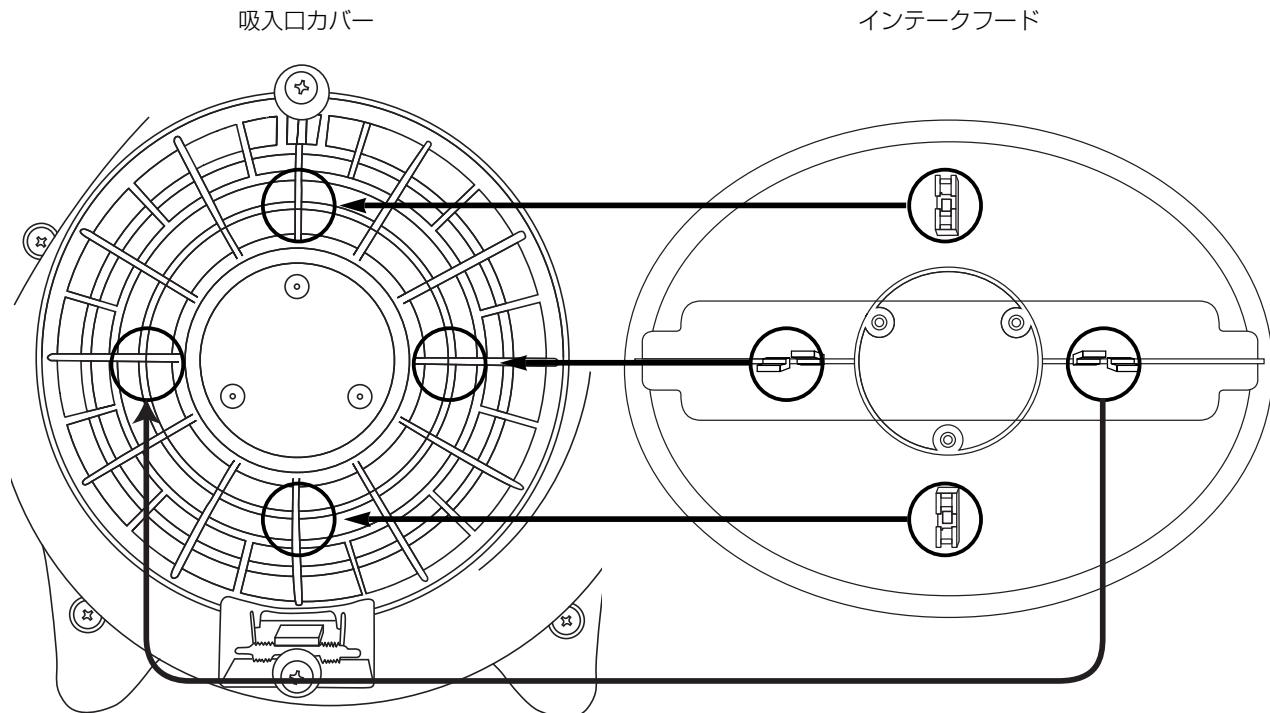


(2) インテークフードの取り付け

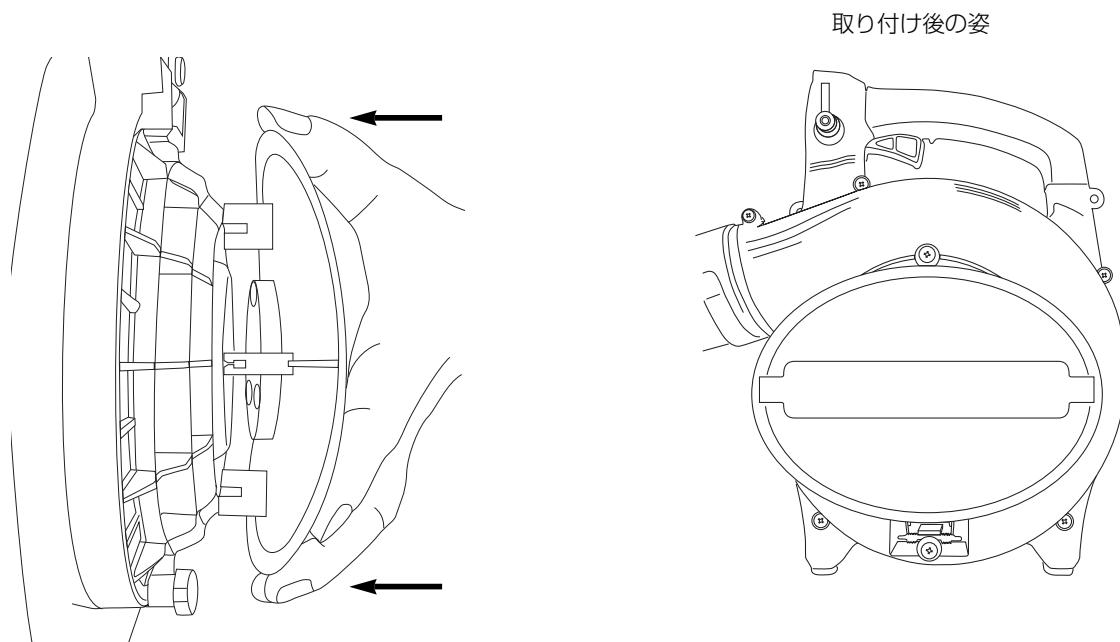


インテークフードを取り付け、又は取り外すときは、エンジンを停止してください。

①インテークフードの取り付け溝を吸入口カバーの格子に合わせてください。



②押し込んで固定してください。



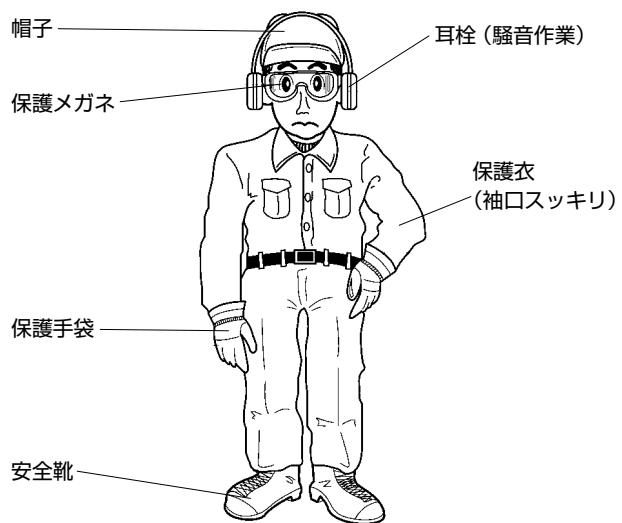
6 作業の準備

▲注意

服装は、身体の露出する衣服は避けてシャツの裾などは必ずズボンの中に入れて、作業中に引っ掛けることのないようにしてください。また、図の「正しい服装の一例」のように必ず保護具を付けてください。

作業前に、各部のネジを点検し、ゆるみのあるところは締めしてください。

正しい服装の一例



⚠ 警告

排気ガスは人体に有害です。換気の悪い場所で運転しないでください。

⚠ 注意

作業機から発する電波雑音により、無線装置が誤作動するおそれがあります。無線装置の近くでは、運転しないでください。

(1) 給油**注意**

ガソリンだけで運転すると、エンジンが焼き付き故障します。

⚠ 危険

- 混合燃料は引火性の高い燃料です。必ず火気厳禁を守ってください。
- 混合燃料を補給する時は必ずエンジンを停止し、冷えてから行なってください。
- 混合燃料は金属製の燃料缶に入れて保管、運搬してください。樹脂製タンクに入れて保管、運搬すると静電気が発生し危険です。

注意

混合燃料を樹脂製タンク内に保管すると、樹脂の成分が燃料の中に溶け出して、エンジン故障の原因となります。

● 燃料は無鉛ガソリンに市販の2サイクル専用オイル^{※1}を下表の割合で混合し、ご使用ください。

ガソリン	2サイクル専用オイル	
	50 : 1 (FD、FC級)	25 : 1 (FB級)
1L	20mL	40mL
5L	100mL	200mL

※1 : 2サイクル専用オイルはJASO性能分類によりFB、FC、FDの3種に分類され、容器に表示されております。(FAグレードは現在廃止されております。)

注意

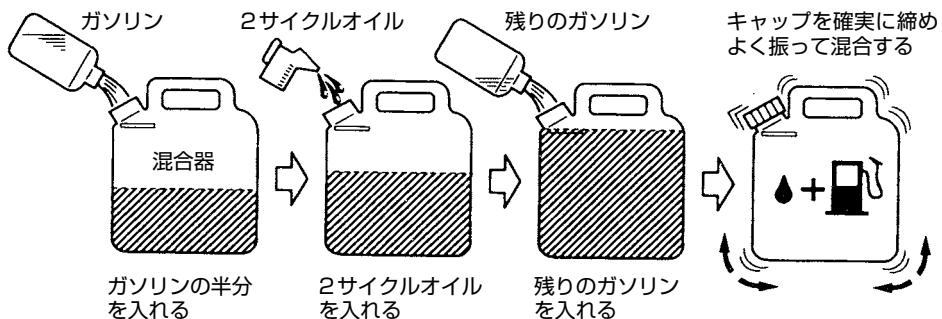
- エンジンが故障しますので、2サイクルオイル以外は使用しないでください。
- 混合燃料は1日で使いきる量だけ作ってください。1ヶ月以上経過すると燃料が腐敗する恐れがあります。腐敗した燃料はエンジンを故障させるので、絶対に使用しないでください。

〈1〉 混合燃料の作り方

- ①混合器はいつもきれいにして使用してください。
- ②混合器に、混合するガソリンの半分を入れてください。
- ③規定量のオイルを入れ、残り半分のガソリンを入れてください。
- ④混合器のキャップを確実に締め、混合器をよく振ってガソリンとオイルを混合してください。

注意

燃料タンクに直接ガソリンやオイルを入れて混合しないでください。



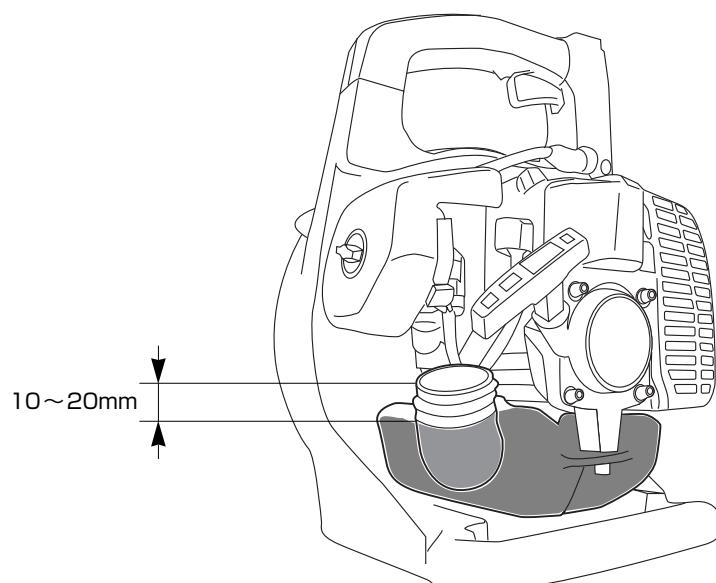
〈2〉 給油方法

混合燃料は少しずつゆっくり入れ、燃料タンクの給油口先端から10~20mmまで（給油口根元付近まで）入れてください。

⚠️ 警告

漏れた混合燃料は、火災を発生させる恐れがあります。次の事項を守ってください。

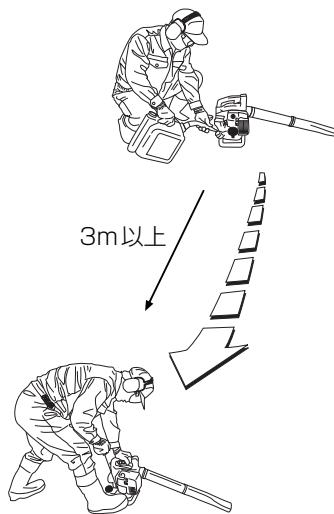
- 混合燃料はこぼさないように注意してください。こぼした場合はきれいに拭き取ってください。
- キャップはしっかりと締めて、混合燃料が漏れないことを確認してください。
- キャップから燃料もれがある場合、キャップを締め直してください。なお燃料もれが止まらない場合は修理してください。
- 補給時にエンジンや燃料タンクからの燃料もれがないか確認してください。もし燃料もれがある場合は、ただちに修理してください。



(2) 始動

⚠ 警告

- 始動は必ず、給油した場所から3m以上離れたところで行なってください。
- 換気の悪い場所で始動しないでください。



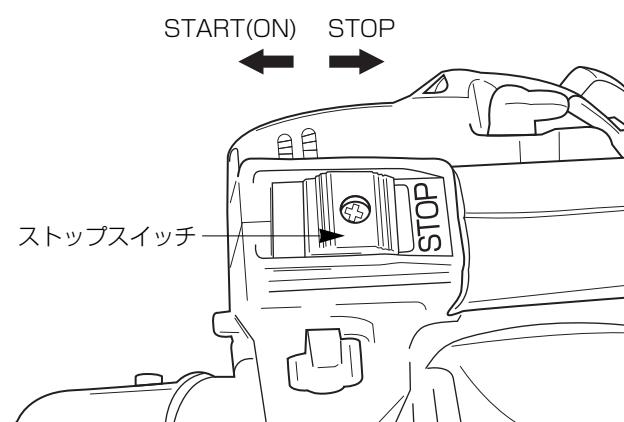
⚠ 注意

傷害事故防止のため、次の事項を守ってください。

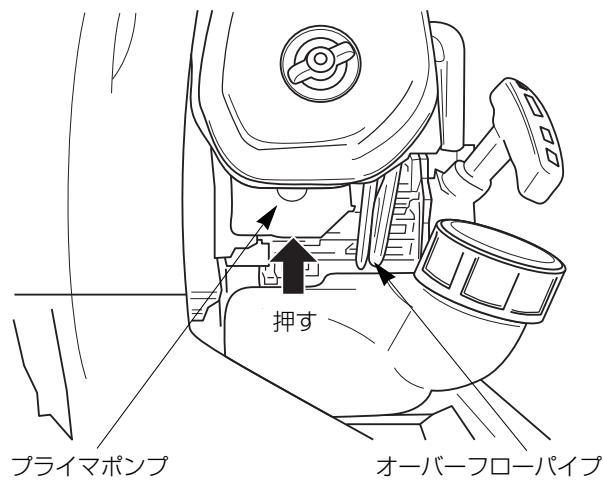
- 周囲15m以内に人や動物がいないことを確認し、安定した場所で始動してください。

〈1〉 エンジンが冷えている時の始動方法

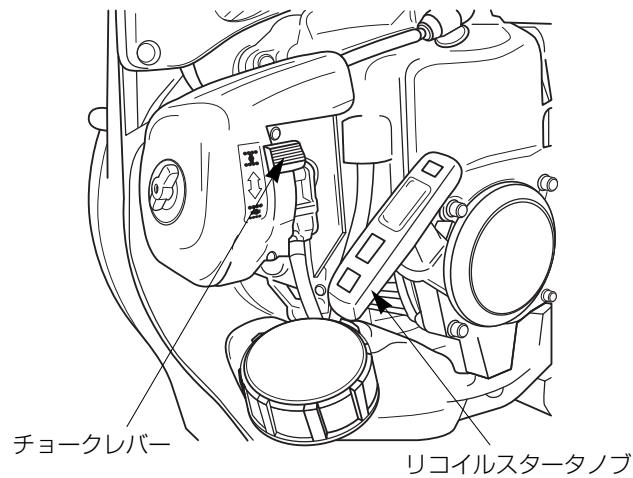
- ① ストップスイッチを「START」側へ動かしONの位置にしてください。



③プライマポンプを矢印側から押してください。オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料が戻り空気の泡が出なくなるまで何回もプライマポンプを押してください。(初めてタンクに混合燃料を入れて始動するときには7~10回程度押す必要があります。)

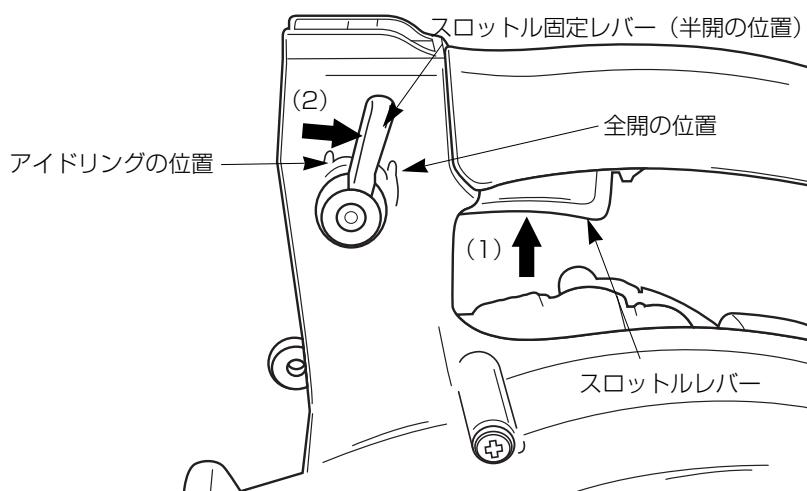


③チョークレバーを閉 (工) の位置に動かしてください。

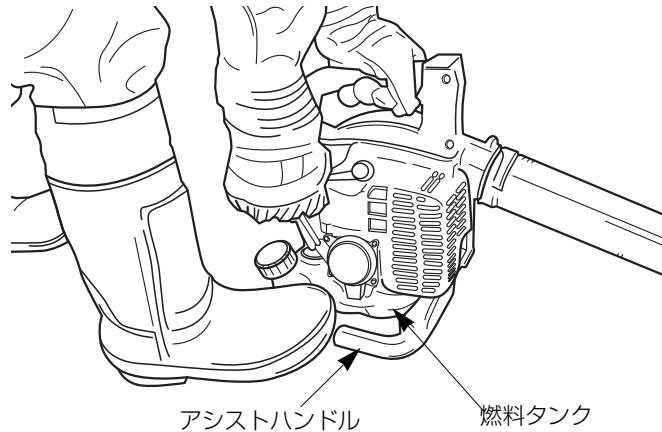


④スロットルレバーを握り(1)、スロットル固定レバーを半開の位置に動かしてください(2)。

⑤スロットルレバーを放してください。



⑥左手でブロアのハンドルを持ち、右足でアシストハンドルを踏み、ブロアをしっかりと支えてください。



注意 アシストハンドルを踏むときに、燃料タンクやブロアを壊さないように注意してください。

⑦リコイルスタータノブを軽く引き、重くなった位置から勢いよく引いてください。その際に、ロープは引ききらないでください。また、リコイルスタータノブは持ったままゆっくりと元の位置に戻してください。

⑧リコイル操作を繰り返し、エンジンが始動したら、エンジンの調子をみながらチョークレバーを徐々に開（ $\overline{\text{—}}$ ）の位置に戻して、スロットル固定レバーもアイドル位置に戻してください。

爆発音のみで始動しなかった場合は、チョークレバーを開（ $\overline{\text{—}}$ ）の位置に戻して、スロットル固定レバーもアイドル位置に戻して、リコイルスタータを勢いよく引いて始動させてください。この時のように、初めて爆発したことを初爆といいます。

注意

初爆の音を聞き逃して、チョークレバーを閉（ — ）の位置のままリコイルスタータを何回も引き続けると、混合燃料がエンジンシリンダの中へ入り過ぎて、エンジンが始動できなくなります。

チョークレバーを閉（ — ）の位置で5～6回リコイルスタータを引いても、初爆が無い場合（聞こえなかった場合）はチョークレバーを開（ $\overline{\text{—}}$ ）の位置に戻し、スロットル固定レバーもアイドル位置に戻して、リコイルスタータを5～6回勢いよく引いて始動させてください。

⑨エンジンが始動したら、そのままアイドリングの状態で1～2分間暖機運転してください。

〈2〉 エンジンが暖まっている時の始動方法

すでにエンジンが暖まっている時、又は気温が20℃以上の時。

①ストップスイッチをONの位置にしてください。

②プライマポンプを矢印側から押してください。オーバーフローパイプから燃料タンクに混合燃料が戻り空気の泡が出なくなるまで何回もプライマポンプを押してください。

- ③チョークレバーを開（）の位置にしてください。
- ④スロットル固定レバーをアイドル位置にしてください。
- ⑤エンジンが始動するまでスタータのグリップを引いてください。

スタータのグリップを5～6回引いて、エンジンが始動しない場合は、エンジンが冷えている時の始動方法で始動してください。

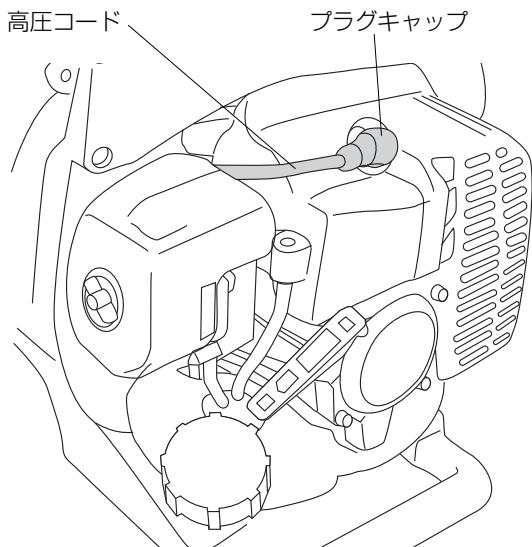
⚠ 警告

傷害事故防止のため次の事項を守ってください。

- 暖機運転中は、機械から離れずに、人が近づかないようにしてください。

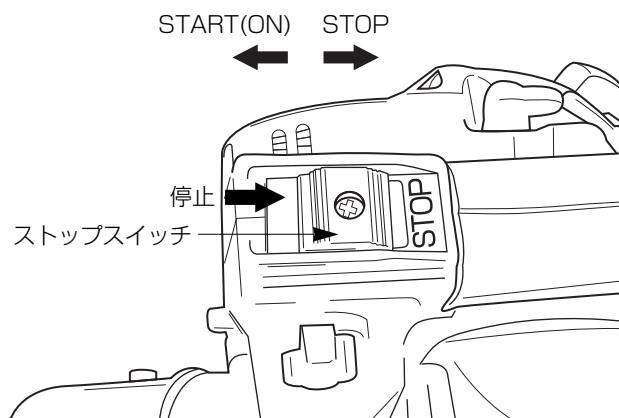
⚠ 注意

- 感電防止のため、運転中はプラグキャップや高圧コードにはさわらないでください。



(3) 停止

- ①スロットル固定レバーをアイドル位置にしてください。
- ②スロットルレバーを放しアイドリング位置に戻してください。
- ③そのまま1分位冷機運転してください。
- ④ストップスイッチを「STOP」側へ動かしてください。



■緊急停止

- 緊急にエンジンを停止する時は、ストップスイッチを「STOP」側へ動かしてください。

▲警告

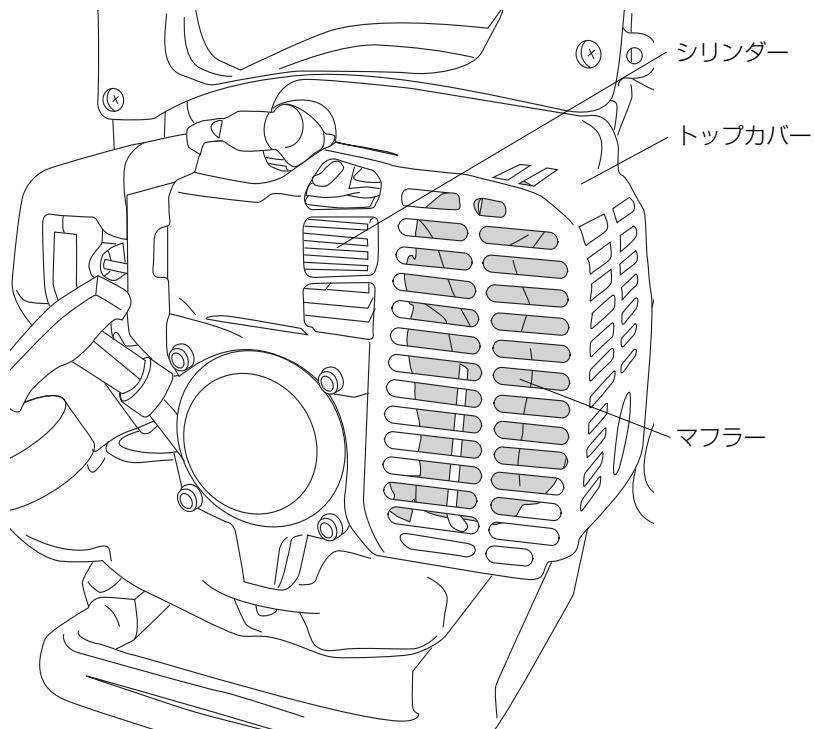
- ストップスイッチ等の故障でエンジンが停止しないときは、緊急手段としてチョーカレバーを（）（閉じる）の位置にしてください。エンジンは失速停止します。
- その後すぐ最寄りの販売店に修理を依頼してください。
- 修理が完了するまでは運転しないでください。

注意

- 高速回転で運転中に急に停止させることは、エンジンに無理がかかり、故障の原因となります。緊急時以外は、スロットルレバー及びスロットル固定レバーをアイドリング位置に戻してからエンジンを停止してください。

▲注意

- 冷却運転を行なわずにエンジンを停止するとバックファイバーにより破裂音がすることがあります。
- 火傷防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラー等の高温部にさわらないようにしてください。



(4) 作業

①エンジンが始動したら、そのままアイドリングの状態で1～2分間暖機運転してください。

▲注意 ここで実作業に入る前に (3) 停止の項に従ってストップスイッチを「ストップ」側へ動かして、エンジンが停止することを確認し、始動・停止の練習をしてください。

②スロットルレバーは、トリガータイプ反発レバーですので、握ればエンジンは作動し、放せばブロアは停止します。エンジンの回転を上げる場合は急激に上げず、徐々に回転を上げてください。

③スロットルレバーを放すと、エンジンはアイドリング回転になります。ブロアの回転が高い場合は、アイドリング調整をしてください。[P19 (1) アイドリング調整の項目参照]

④エンジンの回転はスロットルレバー、とスロットル固定レバーで操作します。

※スロットル固定レバーの操作方法

スロットルレバーを握りスロットル固定レバーを作業にあわせ動かします。

スロットルレバーを放す。エンジンはスロットル固定レバーで設定した回転数で動き続けます。

⑤スロットルレバーの握り具合（エンジンの回転速度）は、作業に合わせて調節してください。

▲注意

- 騒音などの問題になる時間帯はさけて状況に応じてエンジンの回転を低くしてご使用してください。
- 作業中は、ハンドルをしっかり握って安定した姿勢で作業してください。
- ハンドルにはオイル、燃料、泥等を付けない様にしてください。

作業後

①エンジンを停止してから、保護手袋を付けて、ブロアの損傷有無の点検をしてください。ブロアに損傷がある場合は、最寄りの取扱店にて修理してください。

②ブロアを掃除し、混合燃料を燃料タンクから燃料缶に排出してください。プライマポンプを何回か押してキャブレタ内の混合燃料を燃料タンクに戻してください。その後もう一度、燃料タンクに残った混合燃料を燃料缶に排出してください。

7 点検・整備

⚠ 警告

- 取扱説明書に記載されていない整備・調整は、技術を必要とし危険が伴う場合があります。最寄りの取扱店に依頼してください。
- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。

⚠ 注意

事故防止のため、下記の事項を守ってください。

- 機械の点検・整備を行なうときは、まわりを整理して行なってください。
- 作業に関係ない人を近づけないでください。

(1) アイドリング調整

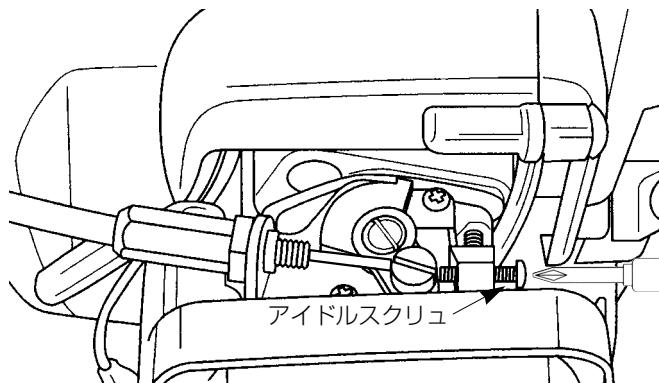
エンジンのアイドリング回転速度は、出荷時に調整済みですが、もし調節が必要な場合がありましたら次の要領で2700～3300rpmに調整してください。

①アイドリング回転数を下げる場合

アイドルスクリュを左（反時計方向）に回す。→ 回転下がる。

②アイドリング回転数を上げる場合

アイドルスクリュを右（時計方向）に回す。→ 回転上がる。

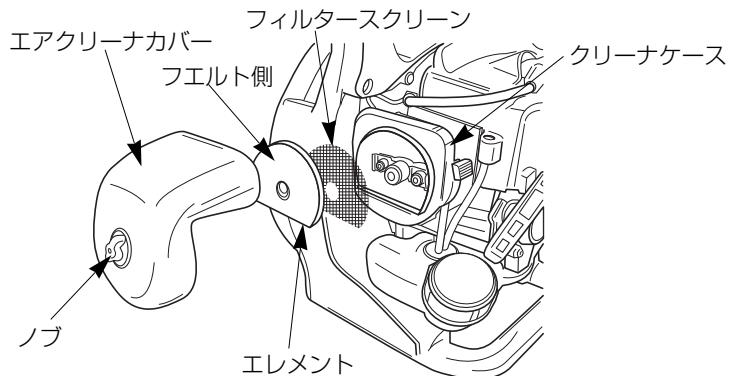




注意 ケガ、ヤケド防止のため、(2)～(5)の点検・整備は必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行なってください。

(2) エアクリーナ

- エアクリーナのエレメントが汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良をおこします。20時間に1回清掃してください。
- 100時間毎に新しいエアクリーナのエレメントに交換してください。



- ①チョークレバーを閉（）の位置にしてください。
- ②ノブをゆるめ、エアクリーナカバーを外してください。
- ③エレメントとフィルタースクリーンをクリーナケースから取り出してください。
- ④エレメントとフィルタースクリーンに付着しているゴミやホコリをエアーで吹き飛ばすか、暖かい石けん水で洗ってください。石けん水で洗った場合は、よくしぼってください。
- ⑤エレメントのフェルト側がエアクリーナカバー側になるように、エレメントとフィルタースクリーンをクリーナケースに取り付けてください。
- ⑥エアクリーナカバーをクリーナケースに取り付け、ノブを締めてください。

(3) 点火プラグ

- 点火プラグの点検は25時間毎に行なってください。
- 100時間毎に新しい点火プラグに交換してください。

- ①点火プラグの電極スキマは、0.6mm～0.7mm（ハガキ3枚分程度）が正常です。広すぎたり狭すぎたりしている場合は調整してください。また、電極部にカーボン等が堆積している場合はワイヤブラシ等で清掃してください。



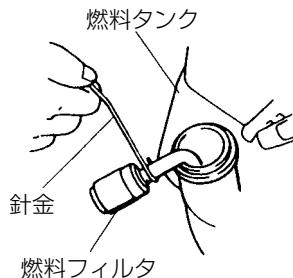
- ②中心電極や外側電極が焼けて丸く減っている場合は、プラグを交換してください。

(4) 燃料タンク

燃料フィルタが詰まると、始動不良や加速不良の原因となります。

①25時間毎にフィルタを取り出してゴミを取り除きガソリンで洗浄してください。汚れがひどいときは、フィルタを交換してください。

②燃料タンク内にゴミがあるとフィルタが詰まりやすくなります。ゴミを取り除き、燃料タンクとフィルタをガソリンで洗浄してください。

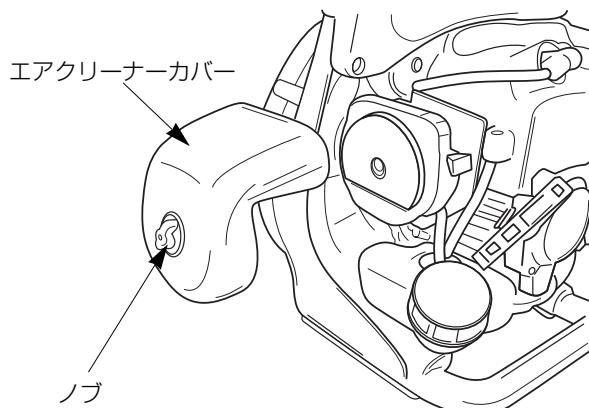


(5) エンジン各部の清掃

●エンジン各部にゴミが詰まっていると、エンジンの冷却不良が発生し、オーバーヒートの原因となります。トップカバーを外し冷却風通路やシリンダーフィンを清掃してください。

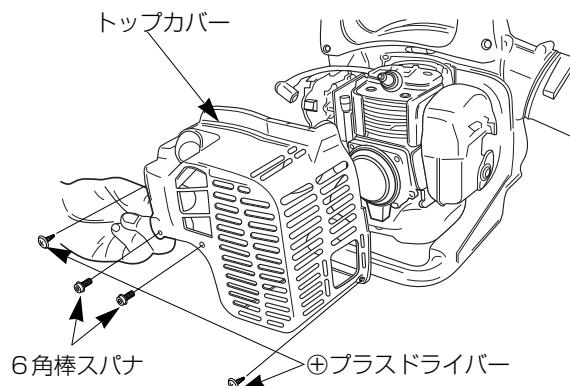
●エンジン各部の清掃は、25時間毎に行なってください。

①ノブをゆるめ、エアクリーナーカバーを外してください。



②プラグキャップをねじりゆるめ、点火プラグから外してください。

③トップカバーを取り付けている4個のボルトを6角棒スパナ（3mm）とプラスドライバー（プラスドレンチ）を使って外し、トップカバーを外してください。



④冷却風通路やシリンダーフィンのゴミやホコリを清掃してください。

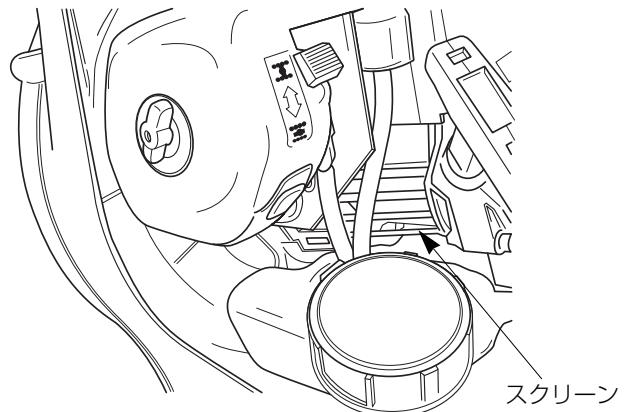
⑤清掃後は、トップカバーとクリーナーカバーを元の位置に取り付けてください。



カバーやボルトを外したまま、エンジンを運転しないでください。

(6) エンジンスクリーン

- スクリーンに付着しているゴミやホコリを清掃してください。
- 点検と清掃は使用毎に行ってください。



(7) スパークアレスタ

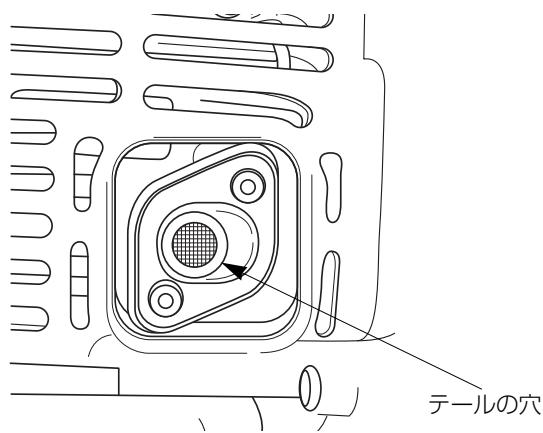
▲ 注意

マフラーはエンジン運転中および停止直後は、高温です。

火傷のおそれがありますので、マフラーにさわらないでください。

スパークアレスタの点検と清掃は、マフラーが冷えてから行なってください。

- スパークアレスタにカーボンが堆積すると、エンジンの出力低下を起こします。
- スパークアレスタの点検と清掃は、25時間毎に行ってください。
- スパークアレスタの金網が完全に清掃できない場合、又は破損した場合は新しいスパークアレスタと交換してください。
 - ①マフラーに装着されている2個のボルトを取り外してください。
 - ②テール、ガスケットとスパークアレスタを取り外し、安全溶剤やワイヤブラシ等で清掃してください。
 - ③清掃後は、テール、ガスケットとスパークアレスタをマフラーの元の位置に取り付け、2個のボルトで締めてください。
 - ④下の絵を参考に、テールの穴は左の位置に取り付けてください。



(8) マフラ

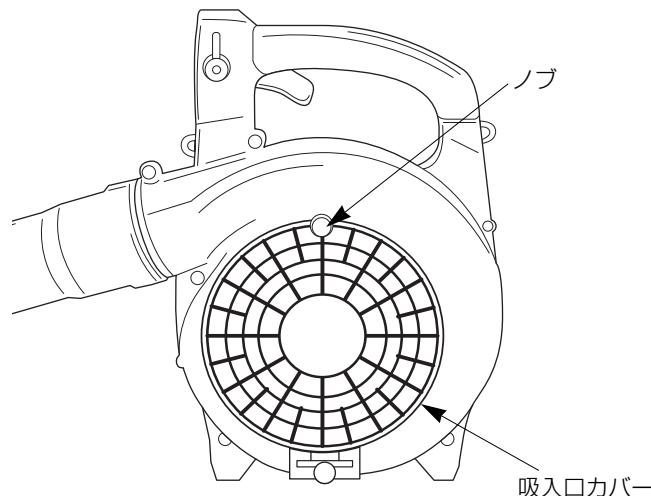
- マフラの点検清掃は、100時間毎に行ってください。

注意

マフラ内部、シリンダ、ピストンにカーボンが堆積すると、エンジンの出力低下を起こします。カーボン除去の作業は、専門の技術及び道具を必要とします。最寄りの取扱店に依頼してください。

(9) 吸入口カバー

- 吸入口カバーの点検と清掃は、使用毎と送風量が減少したときに行なってください。
- 吸入口カバーのゴミ、ホコリを清掃してください。



！注意

吸入口カバーなしでは絶対に使用しないでください。

エンジンを始動する前に、吸入口カバーのノブのゆるみと破損がないか、点検を行なってください。

(10) ボルト・ネジ

各部のボルト・ネジのゆるみを点検し、ゆるんでいる場合は増し締めしてください。

8 長期保管

「点検・整備」の(2)～(10)項の整備を行なってから保管してください。また、損傷箇所がある場合は必ず修理してから保管してください。

(1) 混合燃料がタンク内やキャブレタ内に残ったまま長期保管すると、混合燃料が変質してエンジンがかからなくなります。一週間以上使用しない場合は、必ず混合燃料を抜き取ってください。

注意

混合燃料の抜き取り方

①燃料タンク内の混合燃料を抜き取ってください。

②キャブレタのプライマポンプを混合燃料が出なくなるまで押して、配管通路内の混合燃料を抜き取ってください。

③始動させ、エンジンが止まるまで運転してください。

(2) 点火プラグを外し、点火プラグ穴から2サイクルオイルを数滴注入してください。2～3回リコイルスタートをゆっくり引いた後、点火プラグを取り付け、締め付けてください。リコイルを引いて重くなった位置で止めてください。作業時に油滴が飛び散ることがあるので、保護メガネ等で目を保護してください。

(3) 各部を充分に清掃し、保管はチリやホコリが付着しないよう注意して火気のない、高温多湿にならないところに格納してください。

9 故障と対策

(1) まったく始動しないとき

故障原因	対策
マフラのスパークアレスタにカーボンが詰まっている。	► テールパイプのカーボンを取り除く。
不良燃料や水などが混入した燃料を使用。	► 燃料タンク内及びキャブレター内の燃料を正規の混合燃料に入れかえる。 [P11 (1) 給油の項目参照]
燃料フィルタのゴミ詰まり。	► 燃料フィルタの清掃を行なう。 [P21 (4) 燃料タンクの項目参照]
アイドリング回転数が低過ぎる。	► アイドリング調整する。 [P19 (1) アイドリング調整の項目参照]
点火プラグにゴミが付着。	► 点火プラグを清掃する。 [P20 (3) 点火プラグの項目参照]
混合燃料の吸過ぎ。	► 点火プラグを外しよく拭き取り乾燥させる。

(2) 始動するが回転が上がらなかったり、出力が充分でないとき

故障原因	対策
チョークが全開になっていない。	► チョークを全開にする。
燃料混合比を誤っている。	► 正規の燃料混合比の混合燃料に入れかえる。
燃料フィルタのゴミ詰まり。	► 燃料フィルタの清掃をする。 [P21 (4) 燃料タンクの項目参照]
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	► エレメントの清掃をする。 [P20 (2) エアクリーナの項目参照]
マフラのスパークアレスタにカーボンが詰まっている。	► テールパイプのカーボンを取り除く。
冷却風通路やシリンダフィンにゴミ詰まりがある。	► 冷却風通路のゴミを取り除く。 [P21 (5) エンジン各部の清掃の項目参照]

(3) 運転中、回転が次第に下がるとき

故障原因	対策
不良燃料を使用。	► 燃料タンク内及びキャブレタ内の燃料を正規の混合燃料に入れかえる。 [P11 (1) 給油の項目参照]
エアクリーナのエレメントが詰まっている。	► エレメントの清掃をする。 [P20 (2) エアクリーナの項目参照]
スパークアレスタ又はシリンダの詰り	► スパークアレスタ又は排気ポートを清掃する。 [P22 (7) スパークアレスタの項目参照] [P23 (8) マフラの項目参照]
プロアパイプの詰りとゆるみ	► パイプの清掃、締め付け、破損の場合、交換。

上記についてお調べのうえでお手元のサービスが必要なときは、最寄りの取扱店にご相談ください。

サービスと保証について

■▲警告 保証について

機械の改造は危険ですので決して改造しないでください。改造した場合や、取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合、使用上の誤りがあった場合は、メーカーの保証対象外になりますのでご注意ください。また、保証書をよくお読みください。

■アフターサービスについて

○始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、すぐに適切な整備をしてください。お買い上げの販売店にご連絡ください。

○連絡していただく内容

●機種名

●製造番号

●故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。

○本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、お買い上げの販売店に点検整備をご依頼ください。この時の整備は有料となります。

■補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、本製品の製造打ち切り後8年です。

但し、供給年限内であっても、特殊部品については納期等をご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で修了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

製品に関するお問合せ等は、まず、ご購入の販売店にご相談ください。
または、下記の全国共通無料通話でもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120-898-114

受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝日を除く)

製品についてお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

①製品型式名、製造番号

②ご購入年月日

③販売店名



株式会社
丸山製作所

本社／東京都千代田区内神田3-4-15 TEL.03(3252)2281(営・代表) 〒101-0047